

上昇傾向が続くキャットフード価格

2024年6月7日

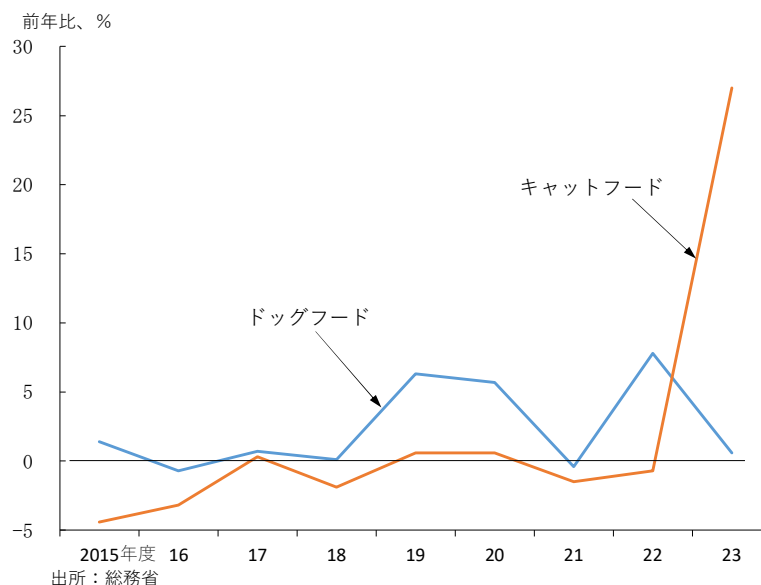
調査部 特任研究員 北田 英治

2023年度のキャットフード価格は前年比27.0%上昇

総務省は毎月、「消費者物価指数」を公表している。エコノミストという仕事柄、何が足元の物価を押し上げているのか、非常に気になっている。数か月前、あることに気づいた。それは2023年4月以降、キャットフードの価格が急上昇しているということである。消費者物価指数を品目別に見ると、ペットフード（キャットフード）は23年4月に前年比+18.9%と大幅に上昇し、その後、24年3月まで二桁の伸び率を維持していた。直近24年4月は前年比+6.4%と前月（同+25.1%）に比べて伸びが鈍化したものの、依然として上昇傾向が続いている。これを年度ベースで見ると、2023年度はキャットフードが前年比+27.0%となっており、ドッグフード（同+0.6%）と比べて価格の上昇が顕著であることが分かる（図表1）。

実は、私は「猫派」である。現在住んでいるマンションが犬猫の飼育を禁止しているので、猫を飼ってはいないものの、たまに猫カフェや猫島¹に行ったりもする。そこで、猫好きのエコノミストとして、キャットフードの価格が大幅に上昇している背景にあるものを考えてみたい。

図表1 ペットフードの物価指数の推移（年度ベース）



¹ 猫島とは、島全体に猫が多く、猫の数が島民の数に匹敵する、もしくは島民の数以上に多い島のこと。全国に複数、存在する。

キャットフードの高付加価値化が進んでいる

実際、私の周りには猫好きからも、最近のキャットフードの価格上昇が著しいとの声が多く寄せられている。この背景には、コロナ禍の落ち込みから世界経済が回復する中で、肉や魚、穀物などのキャットフードの原材料価格が上昇していることや、円安の進行によって海外からの輸入コストが増加していることがあると考えられる。

加えて、最近のキャットフードの高付加価値化が全体の価格を押し上げていると考えられる。先日、横浜の百貨店内にあるペット用品店に行ってみたところ、キャットフードの種類の豊富さに驚かされた。例えば、猫の種類別（アメリカンショートヘア、ブリティッシュショートヘア、メインクーンなど）や年齢別（子猫期、成猫期、中高齢期、高齢期）、特別なケア別（毛玉が気になる、肥満気味など）にキャットフードが売り出されている。愛猫に最適なものを食べさせたいという飼い主のニーズに応じて、キャットフードの高付加価値化が進んでいるとみられる。

総務省の消費者物価指数の算出においては、品目ごとに価格変動の面で代表性のある基本銘柄を特定して計算している。キャットフードの基本銘柄を確認すると、「総合栄養食、成猫用、ウェットタイプ、パウチ入り（70g入り）、普通品」となっている。また細部指定として「商標指定」との注記がある。この「商標指定」とは、「調査店舗で最も出回りの多い商標を指定して調査する」という意味である。キャットフードの高付加価値化の流れの中で、基本銘柄のキャットフードの価格も上がりやすくなっていると推察される。

飼い猫も大切な家族の一員だから、キャットフード価格の上昇を受け入れやすい？

もちろん、こうしたキャットフードの高付加価値化の背景にあるのは、家族の一員である飼い猫の健康を気遣う飼い主の気持ちである。飼い主はキャットフードの価格が上昇しても購入数量を抑制したり、低価格品にシフトしたりすることはしにくく、結果として価格の上昇を容認し、それが大幅な価格上昇に繋がっている面もあると考えられる。

完全室内飼いの猫が増え、事故やけんかでケガをしたりするリスクが低下したことや、キャットフードの品質が向上したことを受けて、猫の平均寿命が延びていると言われている。今後、シニア猫（11歳以降）向けを中心にキャットフードの高付加価値化が一段と進み、そのことがキャットフード価格の更なる上昇をもたらす可能性もあると考えられる。

執筆者紹介



北田 英治（きただ えいじ）

浜銀総合研究所 調査部 特任研究員

マクロ経済・金融マーケットを中心とする調査業務を担当。

各種レポートの作成や講演活動などに携わる。

F Mヨコハマの朝の番組「ちょうどいいラジオ」の経済コーナーに毎週レギュラー出演中。

浜銀総合研究所では、景気動向に関するレポートなどの発行情報をメールにてお知らせしています。ご関心のある方は、下記のサイトより、「レポート更新情報お知らせメール」（無料）にご登録ください。

【URL】 https://www.yokohama-ri.co.jp/html/inquiry/inquiry_repo.html?nno=5

本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、レポート執筆時の情報に基づく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に際しては、お客さまご自身の判断にてお取り扱いいただきますようお願いいたします。